

4つの生活時間圏

～2000年NHK県別生活時間調査から～

世論調査専門委員 牧田徹雄



2000年に実施した、県別の生活時間調査を分析したところ、時間の使い方に県による違いがかなりあることがわかりました。そして、その違いの中から、4つの生活時間圏が浮かび上がってきました。

2000年に行った国民生活時間調査は、地域放送の編成や制作に役立てるため、都道府県単位でも結果がわかるようにしました。

調査相手は10歳以上の県民1県あたり960人（層化2段階無作為抽出、80地点×12人）、調査時期は10月の中下旬、調査方法は配付回収法によっています。調査内容は行動と時刻目盛り（15分単位）がのっている調査票に調査対象日の実態を線で引いてもらうもので、調査有効率は県ごとで違いますが、全県をならしてみると73.1%になりました。

調査を行う前は、交通機関やコミュニケーション手段が進んでいる現在、果たして県ごとの生活にはっきりした違いが出るかどうかが懸念されましたが、調査の結果が出ると、それが杞憂であることがわかりました。そこで、いくつかの具体例を、下の表を参照しながら紹介することにしましょう。



朝寝坊の県と早起きの県

1日の行動の始まりは目ざめにあります。全国の結果をみると、平日、寝ている人の率が50%を割る時刻は朝6時30分となっています。したがって、「平日の日本人の標準的な起床時刻は6時30分である」という言い方が可能です。そこで、

この6時30分の時点でまだ眠っている人の率を県別に比較して、率が高いほど「朝寝坊の県」、率が低いほど「早起きの県」と定義することにします。

この定義にそって、朝寝坊のトップグループを5県あげると、京都、大阪、東京、沖縄、北海道となり、早起きのトップグループは、青森、福島、秋田、富山、茨城、岩手となります。そして、こうした違いが何によって生じているかを調べたところ、農業従事者や高齢者が少なく、また、日の出時刻が遅い県ほど、朝寝坊の県になり、その逆であれば、早起きの県になるという傾向がうかがえました。



通勤時間と乗用車の普及程度

いかにも地域差が出そうな行動に通勤があります。平日、勤め人（いわゆるサラリーマン）の通勤時間が長い県には、千葉、神奈川、埼玉、東京、奈良、などが、短い県には、宮崎、愛媛、島根、香川、福井、などがあげられます。

こうした結果をみると、通勤時間の长短を分けるいちばんの要因が大都市通勤圏に属する県か否かということが一目でわかります。そして、データを調べていくうちに、その県間差が乗用車の普及状況（100世帯あたりの所有台数）とかなり似ており、乗用車が普及している県ほど

通勤時間が短くなり、普及していない県ほど長くなるという、もう1つの背景もみえてきました。



仕事時間と仕事の中味

通勤時間のつぎに仕事時間をとりあげてみましょう。平日、有職者（さきほどの勤め人に、農業従事者や自営業者、さらに、自由業・専門職などを加えた、職業を持っている人々）の仕事時間は、京都、岐阜、石川、三重、奈良、などで長く、愛媛、香川、山梨、熊本、鹿児島、福岡、茨城、などで短くなっています。この平日の仕事時間の県間差については、有職者のなかで経営者・管理職と自営業者の占める割合が多い県ほど仕事時間が長くなる確率がやや高くなるという傾向を見い出すことができました。

また、日曜についてみると、長時間グループは、長崎、大分、青森、鳥取、鹿児島であり、短時間グループは、東京、神奈川、埼玉、石川、三重、となりました。そして、日曜については、農業従事者の多い県ほど仕事時間が長くなる、という傾向がかなり認められ、さらに、経営者・管理職や事務・技術職の割合が多い県ほど、日曜の仕事時間が短くなるという若干の傾向もみえました。

経営者・管理職、自営業者、事務・技

生活時間の平日の県間差の具体例

最長（大）県	最短（小）県
睡眠時間（県民全体） 秋田：7時間41分	千葉：7時間04分
朝寝坊率（県民全体） 京都：54%	青森：21%
[日本人の標準起床時刻 6時30分にまだ寝ている人の率。大きいほど朝寝坊の県、小さいほど早起きの県]	
通勤時間（勤め人） 千葉：1時間31分	宮崎：42分
仕事時間（有職者） 京都：8時間07分	愛媛：6時間49分
[仕事時間（有職者・日曜）] 長崎：3時間26分	東京：1時間44分]
学業時間（学生） 長崎：8時間52分	北海道：6時間39分
学校外の学習の比重（学生） 大阪：0.30	青森：0.10
[家や塾など学校外で行った学業時間÷学業時間全体]	
家事時間（成人） 山口：3時間13分	栃木：2時間15分
家事時間の男女比（成人男女） 奈良：15.5倍	岩手：4.1倍
[成人女性の家事時間÷成人男性の家事時間]	
テレビ視聴時間（県民全体） 青森：3時間55分	沖縄：2時間53分

術職の多い県では、休日制度に代表される社会的時間に影響された生活が営まれ、農業従事者の多い県では、天候などに左右される自然的時間の色濃い生活が送られている、といえるのではないですか。



学業時間と進学率

生活時間調査では、学業に要する時間を、「授業・学内の活動」と「学校外の学習」の2つに分けてとらえています。この2つを合わせた学業時間全体のなかで家や塾で行っている学校外の学習時間が占めている割合、つまり、「学校外での勉強に対する重きのおき具合」をみると、県別の特徴がよくあらわれていることがわかりました。

平日、学生の、時間という観点からみた学校外での勉強に対する重きのおき具合(=学校外での勉強時間÷学校内外を合わせた勉強時間全体)の大きい県を5つあげると、大阪、兵庫、山口、和歌山、東京で、近畿地方の県が多く含まれています。そして、重きのおき方が小さい県には、青森、岩手、福島、富山、熊本のように東北地方の県が多く含まれています。

データを探してみると、勉強時間全体のなかで家や塾での勉強時間の占める割合が大きい県ほど、高校卒業者の進学率が高いという傾向がかなりあることがわかりました。たぶん、この関係はどちらが先でどちらが後ということではなく、学校外での学習を重視する県と進学率の高い県との関連が徐々に生じ、それが相乗的に増幅してきたと考えるのが順当でしょう。



家事時間と共働きの率

家事については、平日の家事時間の男女差に、県の違いがはなはだしくみられたので、その背景を考えることにします。男女差は、「成人女性の家事時間÷成人男性の家事時間」として計算してみました。

平日、成人女性の家事時間が成人男性を大きく上回っている県は、奈良、大阪、京都、石川、佐賀であり、ここでも近畿地方の県が多く含まれています。反対に、男女の倍率の小さな県は、岩手、宮崎、高知、福島、群馬で、「はちきん」(きわめて活発で熱情的な面を持った女性)の高知県、「かかあ天下」の群馬県が含まれていました。

この生活時間調査では、職業についている人に対して、「夫婦共働きをしているか、いないか」を尋ねています。そして、県別にみた夫婦共働きの率と、家事時間の男女差の関係を調べたところ、夫婦共働きの率が高い県ほど、平日の家事時間の男女差は小さく、夫婦共働きの率が低い県ほど、男女差が大きくなる傾向がかなりあることがわかりました。

ところで、「夫婦共働き」というと、都会のサラリーマン夫婦を思い浮かべま

すが、実際はそうではなく、農業従事者のほうが共働きの率は高くなっています(全国結果では、農業従事者の68%が夫婦共働きであるのに対して、事務・技術職では44%)。そこで、農業従事者が多い岩手県では家事時間の男女差が小さく、事務・技術職の多い奈良県ではその差が大きくなるというわけです。



テレビ視聴時間と受信契約率

最後に、テレビ視聴時間の県による相違についてとりあげてみましょう。平日、テレビ視聴時間が長い県を上から5つあげると、青森、栃木、広島、秋田、北海道となり、短い県は、沖縄、奈良、福井、東京、大阪、長野、石川となっています。

ところで、この生活時間調査では、「起床在宅時間(率)」という、放送局にとっては重要な指標を算出しています。これは、「自宅において起きている時間(率)」のことであり、テレビを見るのできる時間や率の上限をあらわすものとして扱われてきました。そこで、ここでも、テレビ視聴時間の県間差と起床在宅時間の県による違いとの関係を調べてみました。その結果、起床在宅時間が長ければ、テレビ視聴時間が長い県となり、短ければ、視聴時間も短い県となる可能性がかなりあることがわかりました。

もう一つ、NHKのテレビ受信契約の高さとテレビを見るとの熱心さとの間に関係があるのではないかという想定をしてみました。データをあてはめてみると、県民100人あたりのテレビ受信契約件数の大小関係と、県民1人あたりのテレビ視聴時間の大小関係はかなり似ており、受信契約率が高ければ、テレビ視聴時間が長い県となり、低ければ短い県となるという想定はそれほど外れなものではありませんでした。



4つの生活時間圏

これまでみてきたことに、他の特徴を加味して考えると、現在の日本には、おおざっぱに言って、次の4種類の時間が流れているのではないかと考えられます。

1 東京都を核とした首都圏には先端的な時間が流れています。

その象徴としての東京は、他県と比べて際立った特徴をもっと多く持っている県だと思います。この調査の結果によると、東京都の人口構成の特色は、事務・技術職、男20代、未婚者が全国一多いことです。そして、その生活時間の特色を一言であらわすと、「平日は睡眠を削り、土曜、日曜は寝だめをしながら、テレビ以外のさまざまの楽しみに時間を割いている」となります。そして、首都圏や他の大都市圏にもこのような新しい時間の過ごし方が徐々に浸透しつつあるといえましょう。

2 奈良県、京都府、大阪府など近畿圏に流れているのは経済効率的な時間です。この地域の特色は、ひとつのモーレツ時代のような時間の過ごし方が色濃いことでしょう。とにかく仕事が忙しい、その忙しさの中心には経営者・管理職、自営業者がいる、忙しいから男は家事をやらない、いい大学に入ることを目指して塾通いに多くの時間を割く、などがその内容といえます。

なお、北陸石川県の生活時間もこの範疇に属すると考えられます。

3 青森県、岩手県、秋田県、福島県など東北圏には自然風土的な時間が流れています。

近畿圏と対照的なのがこの地域の生活時間であり、その特徴は、農民的な生活様式の影響が強いことでしょう。仕事時間は休日制度ではなく、気候・天候に左右される要素を含んでいます。夫婦いっしょに農作業をすることが多いから、家事仕事も分担する傾向があります。そして、学校の勉強を重んじて、部活動にも多くの時間を割いています。

なお、その中味は全く違っていますが沖縄県の生活時間も、いくぶん涼しくなる夕方5時以降に外出者が際立って多くなるなど、地理的な要素が強いと思われます。

4 静岡県、愛知県など中部圏には標準的な時間が流れているといえます。

全国の平均的な生活を知るには名古屋や静岡を観察すればよいとよく言われます。この調査の結果をみても、この2つの地域のほかに宮城県、滋賀県、徳島県の3県が他の県にくらべ際立った特徴がなく、そうした意味で全国の標準的なものに近いといえましょう。

そして、これら4種類の生活時間の配合の微妙な違いによって、47都道府県の差異が生じていると考えられるのです。■

【お詫びと訂正】

前号の文研ファイルNo.19『用語研究：新しく決まった読み』の表に誤りがありました。正しくは下記の通りです。お詫びして訂正致します。
(編集・広報)

辞書調査2

	ショーダイケン	ショータイケン
戦前	4	5
昭和(戦後)	0	11
平成	0	8

(冊)

辞書調査3

	サンパイ	ザンパイ
戦前	2	0
昭和(戦後)	40	39
平成	27	32

(冊)